



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月9日

上場会社名 ヒビノ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2469 URL <https://www.hibino.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日比野 晃久
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員ヒビノGMC経営企画グループ担当 (氏名) 大関 靖 TEL 03-3740-4391
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	48,618	17.3	4,494	67.5	4,509	73.9	2,591	83.5
2025年3月期第3四半期	41,435	21.3	2,682	50.3	2,592	36.9	1,412	46.0

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 2,877百万円 (91.3%) 2025年3月期第3四半期 1,504百万円 (38.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	261.16	—
2025年3月期第3四半期	142.21	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	45,434	14,346	29.6
2025年3月期	44,112	12,007	25.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 13,446百万円 2025年3月期 11,431百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	40.00	—	30.00	70.00
2026年3月期	—	40.00	—		
2026年3月期（予想）				40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2025年3月期第2四半期末の配当金40円には、「設立60周年記念配当」10円を含んでおります。

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	67,500	13.5	4,700	12.7	4,700	19.8	2,650	53.8	267.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(連結の範囲の重要な変更)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果により、緩やかな回復が続きました。ただし、物価上昇やアメリカの通商政策の影響による下振れリスクをはじめ、金融資本市場の変動等の影響が懸念され、先行きが見通せない状況にあります。

このような状況のもと当社グループは、グループビジョン「世界のヒビノへ」の実現に向け、中期経営計画「ビジョン2025」（2023年3月期～2026年3月期）に取り組んでいます。本中期経営計画では、中期経営方針として「持続的成長を可能とする経営体質の構築」及び「健全経営の確立」の2つを掲げています。「ハニカム型経営」と「イノベーション」を成長戦略の柱とし、M&Aも活用して新領域を開拓するとともに、適正な利益、財務の安定、人的資本の向上の好循環サイクルを確立していきます。

この方針に基づき、第1四半期には、シンガポールの音響・映像機器の販売施工会社Spectrum Audio Visual Pte. Ltd. を連結子会社化しました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、M&Aに伴う新規連結及び連結範囲の拡大に加え、各事業が堅調に推移したことから、すべてのセグメントで前年同四半期を上回りました。利益面では、とりわけコンサート・イベントサービス事業が、大阪・関西万博やジャパンモビリティショー等の大規模イベント需要及びコンサート市場の活況を背景に伸長し、グループ全体の利益を大きく押し上げたことから、前年同四半期及び計画を上回って推移しました。

これらの結果、売上高48,618百万円（前年同四半期比17.3%増）、営業利益4,494百万円（前年同四半期比67.5%増）、経常利益4,509百万円（前年同四半期比73.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益2,591百万円（前年同四半期比83.5%増）となりました。

なお、前第3四半期連結累計期間において行われた企業結合について、暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定したため、前年同期との比較・分析については、暫定的な会計処理による影響を反映した後の金額を用いております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

[販売施工事業]

販売施工事業は、国内の放送局市場やコンサート・イベント市場、設備市場における設備投資が堅調に推移しています。前年同四半期に計上した大型案件の剥落があるなか、LEDディスプレイ・システムの販売は、新設・改修アリーナや都市部ランドマークの街頭ビジョン、商業施設、駅構内向けなど幅広い案件の獲得により好調を維持しました。また、業務用音響・映像機器等の輸入販売及び施工においても、放送局向けの大型案件等を計上しました。利益面では、販売価格の適正化を進めるとともに、案件進捗に応じた原価管理を徹底し、併せて販売費及び一般管理費の抑制を図ることで、利益率の改善に取り組みました。

海外では、第1四半期において、韓国の子会社間の合併を実施し、事業統合による業務効率化とコスト削減を進めています。また、シンガポールのSpectrum Audio Visual Pte. Ltd. を連結子会社化しました。さらに、前期の第4四半期から連結対象としたオーストラリアのInSight Systemsグループの業績が、当期は期初から寄与していることから、アジア・オセアニア地域における売上規模は拡大しました。

これらの結果、売上高22,654百万円（前年同四半期比13.0%増）、セグメント利益541百万円（前年同四半期比18.5%減）となりました。

[建築音響施工事業]

建築音響施工事業は、メディア・コンテンツ関連や製造業の顧客による設備投資の活発化、都市再開発プロジェクトの進展を背景に、スタジオ、音響実験室、ホールの新設・改修計画が複数進行し、同事業の中核である建築音響施工が引き続き高水準を維持しました。電磁波シールド施工については、機密性要件の高い特定領域において継続的な受注を確保しています。また、データセンターの新設等に伴う騒音対策施工需要も拡大しました。前年同四半期の大型案件の反動減があったものの、これを上回る新規案件や追加工事の積み上げに加え、工事契約の見直し及び原価低減の取り組みも奏功し、売上高及びセグメント利益は前年同四半期を上回りました。

これらの結果、売上高8,244百万円（前年同四半期比6.0%増）、セグメント利益786百万円（前年同四半期比0.2%増）となりました。

〔コンサート・イベントサービス事業〕

コンサート・イベントサービス事業は、主力市場であるコンサート市場において、スタジアム公演やドームツアーを含む大規模案件が相次ぎ、音響・映像ともに活発な稼働が続きました。また、大阪・関西万博においては、複数のパビリオンや関連施設、イベントに対して大型映像サービス及び音響サービスを提供しました。さらに、当第3四半期には、ジャパンモビリティショーに加え、自動車メーカーのグローバルイベントといった企業イベント案件が集中し、これら一連の大型案件の獲得により、過去にない水準の売上高となり、利益面においても、グループ全体の利益を大きく押し上げました。

なお、当社グループにおいて映像制作を担うCHグループ10社のうち、前期の第2四半期より連結対象とした3社に加え、新たに当期の第1四半期より連結範囲に含めた3社を合わせ、計6社を連結しています。

これらの結果、売上高16,480百万円（前年同四半期比24.9%増）、セグメント利益4,109百万円（前年同四半期比72.7%増）となりました。

〔その他の事業〕

その他の事業は、前第2四半期連結会計期間より新たに追加された報告セグメントであります。

当第3四半期連結累計期間は、売上高1,239百万円（前年同四半期比198.2%増）、セグメント利益19百万円（前年同四半期はセグメント損失45百万円）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は45,434百万円となり、前連結会計年度末と比べて1,321百万円増加しました。これは商品及び製品が増加したことが主な要因であります。

負債合計は31,088百万円となり、前連結会計年度末と比べて1,016百万円減少しました。これは短期借入金が減少したことが主な要因であります。

純資産合計は14,346百万円となり、前連結会計年度末と比べて2,338百万円増加しました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び足元の状況を踏まえ、2025年11月10日に公表しました予想数値を修正し、売上高67,500百万円（前連結会計年度比13.5%増）、営業利益4,700百万円（同12.7%増）、経常利益4,700百万円（同19.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益2,650百万円（同53.8%増）といたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,786	4,051
受取手形、売掛金及び契約資産	13,147	13,228
商品及び製品	6,525	7,682
仕掛品	1,474	1,581
原材料及び貯蔵品	139	161
その他	1,601	1,470
貸倒引当金	△61	△47
流動資産合計	26,614	28,128
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,174	3,745
減価償却累計額	△1,550	△1,701
建物及び構築物 (純額)	1,624	2,044
機械装置及び運搬具	19,017	21,219
減価償却累計額	△13,992	△15,423
機械装置及び運搬具 (純額)	5,024	5,795
工具、器具及び備品	2,695	3,150
減価償却累計額	△2,099	△2,398
工具、器具及び備品 (純額)	596	751
リース資産	1,392	1,267
減価償却累計額	△711	△554
リース資産 (純額)	680	712
その他	1,883	1,001
有形固定資産合計	9,810	10,305
無形固定資産		
のれん	2,573	2,205
その他	952	947
無形固定資産合計	3,526	3,153
投資その他の資産		
その他	4,183	3,875
貸倒引当金	△21	△28
投資その他の資産合計	4,162	3,847
固定資産合計	17,498	17,306
資産合計	44,112	45,434

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,920	3,793
短期借入金	7,292	4,442
1年内返済予定の長期借入金	3,880	4,058
リース債務	211	210
未払法人税等	1,226	1,067
賞与引当金	1,116	571
その他	4,082	5,404
流動負債合計	21,730	19,548
固定負債		
長期借入金	7,224	8,323
リース債務	518	555
退職給付に係る負債	2,181	2,221
資産除去債務	216	217
その他	235	221
固定負債合計	10,374	11,539
負債合計	32,104	31,088
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,748	1,748
資本剰余金	2,026	2,046
利益剰余金	7,533	9,459
自己株式	△233	△302
株主資本合計	11,075	12,952
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	49	60
繰延ヘッジ損益	0	6
為替換算調整勘定	112	250
退職給付に係る調整累計額	193	177
その他の包括利益累計額合計	355	494
非支配株主持分	576	899
純資産合計	12,007	14,346
負債純資産合計	44,112	45,434

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	41,435	48,618
売上原価	26,468	30,166
売上総利益	14,967	18,451
販売費及び一般管理費	12,284	13,957
営業利益	2,682	4,494
営業外収益		
受取利息	5	6
受取配当金	14	14
為替差益	—	94
固定資産売却益	45	31
その他	80	113
営業外収益合計	145	261
営業外費用		
支払利息	140	218
為替差損	72	—
その他	22	27
営業外費用合計	235	245
経常利益	2,592	4,509
特別損失		
関係会社整理損	—	27
為替換算調整勘定取崩損	72	—
特別損失合計	72	27
税金等調整前四半期純利益	2,520	4,482
法人税等	1,088	1,786
四半期純利益	1,431	2,696
非支配株主に帰属する四半期純利益	19	104
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,412	2,591

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,431	2,696
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	10
繰延ヘッジ損益	11	6
為替換算調整勘定	79	180
退職給付に係る調整額	△11	△15
その他の包括利益合計	72	181
四半期包括利益	1,504	2,877
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,501	2,730
非支配株主に係る四半期包括利益	3	147

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、当社はSpectrum Audio Visual Pte. Ltd.の株式を新たに取得したため、同社を連結の範囲に含めております。また、前連結会計年度において非連結子会社であった株式会社デランシー、株式会社RECO及び株式会社CHAMELEONは、重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったSama D&I Co., Ltd.は、2025年4月1日付で、連結子会社であるSama Sound Inc.を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	2,094百万円	2,330百万円
のれんの償却額	316	463

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年5月23日開催の取締役会決議に基づき、自己株式31,900株の取得を行いました。また、単元未満株式80株の買取りを行いました。さらに、2025年6月25日開催の取締役会決議に基づく自己株式の処分により自己株式12,831株が減少しております。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が69百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が302百万円となっております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日至2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	販売施工事業	建築音響 施工事業	コンサート ・イベント サービス 事業	その他 の事業			
売上高							
外部顧客への 売上高	20,049	7,774	13,196	415	41,435	—	41,435
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	350	234	104	3	692	△692	—
計	20,399	8,009	13,300	418	42,128	△692	41,435
セグメント利益 又は損失(△)	664	785	2,379	△45	3,783	△1,100	2,682

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,100百万円には、セグメント間取引消去40百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,140百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「コンサート・イベントサービス事業」セグメントにおいて、当社は、2024年5月31日(みなし取得日2024年6月30日)に、CHホールディングス株式会社の株式を取得し、連結子会社化いたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては475百万円であります。

「その他の事業」セグメントにおいて、当社は、2024年8月1日(みなし取得日2024年9月30日)に、株式会社オフィックスの株式を取得し、連結子会社化いたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては88百万円であります。

また、「販売施工事業」セグメントにおいて、当社は、2024年11月21日(みなし取得日2024年10月1日)にInSight Systems Holdings Pty Ltdの株式を取得し、同社及び同社の子会社であるInSight Systems Unit Trustを連結子会社化いたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては991百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間（自2025年4月1日至2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	販売施工事業	建築音響 施工事業	コンサート ・イベント サービス 事業	その他 の事業			
売上高							
外部顧客への 売上高	22,654	8,244	16,480	1,239	48,618	—	48,618
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	282	37	63	21	405	△405	—
計	22,937	8,281	16,543	1,261	49,023	△405	48,618
セグメント利益	541	786	4,109	19	5,457	△963	4,494

(注) 1. セグメント利益の調整額△963百万円には、セグメント間取引消去216百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,179百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 前第3四半期連結累計期間に実施した企業結合について、取得原価の配分が完了していなかったため、暫定的な会計処理を行っております。前第4四半期連結会計期間に確定したことから、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表は、暫定的な会計処理の確定による影響を反映した後の金額により組み替えております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「販売施工事業」セグメントにおいて、当社は、2025年4月1日に、Spectrum Audio Visual Pte. Ltd.の株式を取得し、連結子会社化いたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては90百万円であります。